

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2009年46週 (11月2週 11/9~11/15)
 愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>
 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp
 連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)
 集団かぜの発生について
 RSウイルス感染症
 病原体検出情報
 定点医療機関コメント
 インフルエンザ、感染性胃腸炎、RSウイルス 等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。
 結核(38)、腸管出血性大腸菌感染症(1)、つづが虫
 病(1)、アメーバ赤痢(2)、ウイルス性肝炎(1)、劇
 症型溶血性レンサ球菌感染症(1)、後天性免疫不全
 症候群(1)、梅毒(4)
 名古屋市感染症情報(10月前半/後半)
 WHO 疫学週報抄訳
 2009年10月2日(84巻40号)
 B型肝炎ウイルスワクチン WHO 公式見解改定版
 定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)
 インフルエンザサーベイランス(図1) [警報発令中]

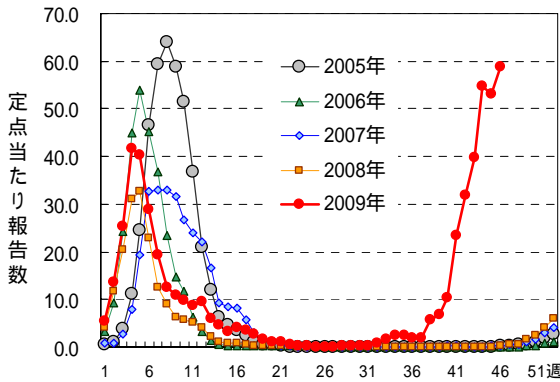


図1 インフルエンザ定点当たり報告数の推移(2009年31週から新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告)

愛知県全体の46週の定点当たり報告数は58.7、前週比1.1倍(総数10,373人 11,447人)です。

【参考ページ】

1. “インフルエンザ”警報を発令します! (10月8日・健康対策課発表)
<http://www.pref.aichi.jp/0000027831.html>
2. 保健所別・定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数マップ
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/influ_map_new.html
3. 新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)に関する情報(ネットあいち)
<http://www.pref.aichi.jp/0000024466.html>

集団かぜの発生について(健康対策課発表)

	発表日	管轄保健所	ネットあいち URL
第48報	11月12日	一宮、瀬戸、半田、春日井、豊川、津島、西尾、江南、知多、師勝、衣浦東部	http://www.pref.aichi.jp/0000028477.html
第49報	11月13日	一宮、瀬戸、半田、春日井、豊川、津島、西尾、知多、師勝、衣浦東部	http://www.pref.aichi.jp/0000028502.html
第50報	11月16日	一宮、瀬戸、半田、春日井、豊川、津島、西尾、江南、新城、知多、師勝、衣浦東部	http://www.pref.aichi.jp/0000028527.html
第51報	11月17日	同上	http://www.pref.aichi.jp/0000028575.html
第52報	11月18日	一宮、瀬戸、半田、春日井、豊川、津島、西尾、江南、知多、衣浦東部	http://www.pref.aichi.jp/0000028598.html

RSウイルス感染症(図2)
 46週の定点当たり報告数は0.23、前週比1.9倍(22人 41人)です。

【参考ページ】

RSウイルス感染症
<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/rs.html>

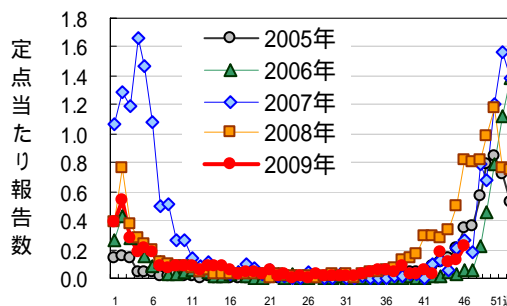
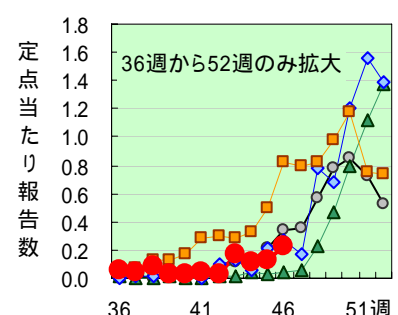


図2 RSウイルス感染症



インフルエンザは 2008/2009 シーズン、()内は 2009/10 シーズンの検査結果です。

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	インフルエンザ
患者数	190	29	72	16	44	23	16	339(189)
PV-2	1							
PV-3	1							
CV-A6		6	16				1	
CV-A10	3	4	21	1				
CV-A16		3						
EV-71		4						
CV-A9						2		
CV-B3			1			2		
CV-B4						3		
E-9			3					
E-11							1	
E-18		1						
HPeV-1	1							
FluAH1pdm								74(53)
FluAH1							1	126(0)
FluAH3								52(0)
FluB								28(0)
Rota A G1	13							
Rota A G3	4							
NV-G	1							
NV-G	35							
SV	1							
AstV	1							
Ad-1	1		1	2				
Ad-2	4		2	1				1
Ad-3				7	4		1	1
Ad-5				1				1
Ad-8					2			
Ad-31	1							
Ad-41	2							
Ad-54				1	1			
検査中	13	2	5		8	2		0(136)
陰性	109	9	23	3	29	14	12	57

略:ウイルス名(他の略名)

Ad : アデノウイルス

FluAH1 : A 型連型インフルエンザウイルス

NV : ノロウイルス

AstV : アストロウイルス

FluAH1pdm : 新型インフルエンザウイルス

PV : ポリオウイルス

CV : コクサッキーウイルス(Cox.)

FluAH3 : A 香港型インフルエンザウイルス

Rota A : A 群ロタウイルス

E : エコーウイルス

FluB : B 型インフルエンザウイルス

SV : サボウイルス

EV-71: エンテロウイルス 71 型

HPeV-1 : ヒトパレコウイルス 1 型

関連ページ

1) 「疾患別ウイルス検出情報」 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

2) 「2008/09 シーズンインフルエンザウイルス分離・検出状況」

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri08_09.html

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

インフルエンザ 小学生で急増。検査陰性でも症状、周囲の状況から判断したものを含め104人となる。

感染性腸炎散見される。

【一宮市 あさのこどもクリニック】

インフルエンザA型 41名。10代を中心に低年齢の小児にも流行。

【一宮市 後藤小児科】

マイコプラズマ 3名あり。

溶連菌感染症とA型インフルエンザの同時感染 2名あり。

【一宮市 ささい小児科】

インフルエンザA型陽性 130名

【一宮市 一宮市立市民病院】

インフルエンザのピークはややすぎた様です。胃腸炎がちらほら見られる様になりました。

【犬山市 武内医院】

インフルエンザ流行が続いています。

(A型135名、B型1名)

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

A型インフル122例。

RSも増加中。

【岩倉市 なかよしこどもクリニック】

インフルエンザ未だ続いております。小中高生に非常に多いようです。

【清須市 丹羽医院】

インフルエンザ61名全てA型でした。

【北名古屋市 田中クリニック】

インフルエンザA型79名。

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

A型インフルエンザ5名。臨床診断インフルエンザ2名。

【豊明市 豊明団地診療所】

インフルエンザAは相変わらず多くみられます。病原大腸菌(O18)4歳女。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザA型18名。

その他溶連菌感染症、突発症、アデノウイルス感染症。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

A型インフルエンザ10～14歳と3歳を中心に依然流行しています。

【春日井市 春日井市民病院】

A型インフルエンザ68例。

RSウイルス感染症増加。

ムンプス・水痘少々。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

当院近辺ではインフルエンザはかなり減少しております。

【春日井市 かがわこどもクリニック】

4歳アデノウイルス感染症。

【春日井市 竹内医院】

インフルエンザはやや低年齢に移行してきているようです。B型が1例見られました。

【小牧市 志水こどもクリニック】

インフルエンザA型男24名、女25名出ています。インフルエンザピーク時はすぎたように思います。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

インフルエンザの診断は232例、うち小児は160名で先週より減少した。

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザA 30名

インフルエンザB 1名

【半田市 医療法人林医院】

インフルエンザすべてA型です。(87名)

【半田市 半田市立半田病院】

インフルエンザA型 149名 B型 3名

【半田市 医療法人敬おっかわこどもクリニック】

A型インフルエンザ 27名

【南知多町 医療法人大岩医院】

インフルエンザA型42名

病原大腸菌O1 1名(2歳)

サルモネラO4 1名(6歳)

【東海市 もしもしこどもクリニック】

7歳女 インフルエンザ迅速テストで10/10にA型(+), 11/11もA型(+)

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

インフルエンザ(A) 27名
インフルエンザA B未確定 7名
E.coli(O74)+カンピロバクター腸炎9歳男
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
インフルエンザ(A) 24名
マイコプラズマ 3名
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
インフルエンザ 陽性 A型 13名
【豊田市 厚生連足助病院】
インフルエンザ1例B型?他すべてA型です。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
3歳男、4歳女 マイコプラズマ感染症
インフルエンザ感染症 先週と一時期に比べれば減少しましたが相変わらず多いです(全例A型)。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
5か月男、1歳男 病原性大腸菌O1(+)VT(-)
1歳男 病原性大腸菌O25(+)VT(-)
インフルエンザB型 4歳女、6歳男
インフルエンザA型 81名
【岡崎市 にいのみ小児科】
すべてA型
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
インフルエンザ53名 全てA型。高校生までの子供が多い。大人には感染しにくいようです。
【岡崎市 粟屋医院】

8名インフルエンザA型
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
すべてA型
【岡崎市 村山医院】
インフルエンザ引き続き流行。
【碧南市 永井小児クリニック】
インフルエンザはA型のみ
マイコ気管支炎 2名(8歳、14歳)
【刈谷市 田和小児科医院】
インフルエンザA 94名
出校停止が医師、地区でばらばらです。
タミフル服用して解熱したら、タミフルは服用しないでよいと指導している医師もいます。
タミフル服用時、解熱していても、3日目でも抗原検査は陽性となります。
【知立市 宮谷クリニック】
10歳男 AとBが出た。
インフルエンザは少し下降気味です。
【三好町 三好町民病院】
インフルエンザまだ減少傾向みられません。
インフルエンザA 113人
インフルエンザB 1歳女、4歳女(家族内発生)
【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

インフルエンザA流行中
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
インフルエンザA 保育園児～小学校低学年に増えてきました。
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
インフルエンザA急増です(先週比 2.6倍)。
【豊橋市 医療法人野村小児科】
インフルエンザA型 54名。今週急激に増加中、10～19歳30名。
【豊橋市 おだかの医院】

インフルエンザA型 111名(2歳から55歳、うち10代が44名)
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
インフルエンザすべてA(+)です。
【豊川市 豊川市民病院】
インフルエンザA型120名。これまでで最も多い。0歳児のり患も3名あり。
【豊川市 ささき小児科】
ロタウイルス1歳女 11/15
【蒲郡市 蒲郡市民病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2009年11月18日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki_jun080512.pdf

結核（二類感染症）

報告保健所	2009年46週報告数			2009年累計(1～46週)		
	総数	喀痰塗抹検査陽性者数再掲	無症状病原体保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査陽性者数再掲	無症状病原体保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	22	6	2	743	210	118
豊田市				71	17	17
豊橋市	1			53	14	4
岡崎市	1	1		42	14	7
一宮				107	31	18
瀬戸	5	2	1	136	42	21
半田	1			58	14	10
春日井	2	1		96	28	15
豊川	1			49	20	8
津島	1			81	18	7
西尾	1			39	8	7
江南				88	21	19
新城				13	5	2
知多	1			82	25	18
師勝	2			41	18	2
衣浦東部				98	29	18
合計	38	10	3	1,797	514	291

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	79歳	女	11/6	11/7	11/10	O157、VT1(+)/VT2(+)

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

つつが虫病（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	半田	59歳	女	愛知県 知多郡

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	42歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	国内
2	一宮	32歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内

ウイルス性肝炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	津島	47歳	男	B型	不明	国内

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	豊川	49歳	男	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	瀬戸	30歳	男	その他	性的接触	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	54歳	男	無症候	性的接触	国内
2	西尾	35歳	男	早期顕症	性的接触	国内
3	知多	34歳	男	早期顕症	性的接触	国内
4	知多	33歳	男	早期顕症	性的接触	国内

庭の隅に今年も大輪の真白な山茶花が一輪ずつ朝日を浴びて咲く季節になりました。この季節になりますと(昨年書いたような気がします)黄色や白の小菊が咲きはじめ、もう少し手入れをしてやれば良かったのに、と悔やんでいたりしています。いつも貴重な情報を有難うございます。体調を崩しておりまして、すこしお休みをいただいております。10月前半/後半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からはインフルエンザA型が急激に増加、PCRで全て新型、入院全体の1/2を占め、ウイルス性胃腸炎、ウイルスあるいはマイコプラズマによる気管支炎・肺炎が入院で目立つ、第二日赤岩佐先生からは外来、入院共にインフルエンザが多く肺炎による入院が目立ちA新型インフルエンザが多い、三菱病院入山先生からは10月後半インフルエンザ(すべてA型)8名で入院2名=2歳男児の嘔吐・脱水合併例と、6歳女児の気管支肺炎(マイコ疑い)合併例、感染性胃腸炎1名、A群溶連菌咽頭炎1名、気管支炎~気管支肺炎(マイコプラズマ含む)の入院4名、中京病院柴田先生からはインフルエンザAが著明に増加、インフルエンザに伴う肺炎、呼吸障害、脳症などの入院が目立ち、溶血性尿毒症症候群の入院1例あり、中部労災病院山田先生からはインフルエンザA感染症が多く、胃腸症状が強い入院例目立ち、インフルエンザに気管支炎や喘息発作合併で要入院例が目立ち、ムンプス2例、インフルエンザB2例、溶連菌感染症数例あり、とのお手紙でした。有難うございました。

2009年10月2日(84巻40号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8440/en/index.html>

B型肝炎ウイルスワクチン

WHO公式見解。04年7月の本週報公式見解の改正版。

(1) 背景

疫学と公衆衛生：B型肝炎ウイルス(HBV)による疾患は世界的に分布。約3億6,000万人が慢性感染者で肝硬変、肝細胞癌による死のリスクにさらされている。HBV関連の死亡は世界で毎年約60万と推定される。HBV自然感染動物は人だけで、感染血液、体液の経皮、経粘膜暴露(主に精液、膣液)で感染。潜伏期は平均75日(30~180日)、感染後HBs抗原が30~60日で検出されるようになり長期持続、その7~40%がHBe抗原保有(感染性高い)。出生時にワクチン接種しないとHBe抗原陽性の母親から出生した児は大多数が慢性感染する。HBの土着性には地域差があり、HBs抗原保有率で8%以上の典型的な高侵淫地区、2%未満の低侵淫地区、2~7%の中間地区に分けられる。高侵淫地区、低侵淫地区、いずれも伝播は周産期、新生児期の母子感染によるものが多く性的接触、注射器材の共用なども考えられ、HB伝播排除総合的アプローチは出生時対策と思春期・成人対策がなされるべきである。HBワクチン接種導入は多くの国でHBV伝播の劇的減少をもたらし、HBV関連慢性肝炎、肝硬変、肝癌の減少が予測されている。08年時点で177カ国で乳児予防接種プログラムに導入、06年(成績のある最近の年)、世

界の新生児の 27%が出生時 HB ワクチン接種を受けており、HB ワクチン価格低下が普及に役立っている。

病原と疾患：ヘパドナウイルス属の二重鎖 DNA ウイルス。人と霊長類の肝細胞で増殖するが試験管内培養細胞では培養できない。HBs 抗原はウイルス外殻リポ蛋白で中和エピトープをもつ。HBV 感染後の経過は年齢依存的で、無症状感染、急性 B 型肝炎、慢性 B 型肝炎、肝硬変、肝癌とさまざまで、急性 B 型肝炎は周産期感染の 1%、1~5 歳小児期感染の 10%、5 歳をこえた年長者で 30%にみられ、劇症肝炎が急性肝炎の 0.1~0.6% (死亡率 70%) にあり、慢性化は感染時期と逆に周産期感染 80~90%、6 歳以前の感染で約 30%、健康成人で 5%未満となっている。HIV との同時感染、アルコールやアフラトキシンなど肝臓毒も経過に大きく関与し HIV 同時感染における高活性レトロウイルス剤投与の影響が注目されている。慢性 HBV 感染者は HBV 関連肝硬変、肝癌死亡リスクが 15~25%あるが他の肝炎ウイルスと臨床診断だけでは鑑別不可能で検査室診断が必須であり、急性 HBV 感染は血中 HBs 抗原の存在と HBeIgM 抗体が特徴的で初期のウイルス増殖がさかんな時期は HBe 抗原も陽性で、感染数週後 HBs 抗体出現と同時に HBs 抗原は消失する。HBs 抗原陽性が 6 ヶ月をこえて持続することが慢性感染の特徴で、HBs 抗原存続が慢性感染・肝硬変・肝癌進展の基本的マーカーである。HBe 抗原の存在は血液・体液の感染性の高いことを意味し、毎年約 10%の慢性感染者は HBe 抗原陰性、HBe 抗体陽性となり、無治療の慢性感染例の 1%が毎年 HBs 抗原消失すると推定されている。最近先進国では少なくとも 7 種類の慢性 HBV 感染治療薬が有効性が認められ、認可されている。この領域における進歩は著明であり、WHO のアメリカ地域・欧州地域などの肝臓病研究協会などが治療ガイドラインを発表しているが、副作用や耐性、ウイルス変異など長期の追跡が重要である。HBsIgG 抗体が免疫有無のマーカーとして検査され、高抗体価グロブリンが暴露後のワクチン接種と同時に受身免疫に利用されているが、ワクチンによる基礎免疫があれば暴露後の追加接種でよく応答し、T 細胞の細胞性免疫の持続も良好である。また、新生児感染における免疫的寛容と慢性感染の関連も重視されている。

(2) HB ワクチンとワクチン接種：リコンビナントワクチンが 1986 年に開発されそれまでの血漿由来ワクチンにとって変わられた。HBs 抗原を酵母または動物細胞で発現させるのが基本。HBs 抗原遺伝子(またはプレ HBs 遺伝子)をプラスミドで挿入された細胞を培養、HBs 抗原精製、アラムやチメロサル添加。単味ワクチンの輸送は 2~8 。凍結しないこと。45 までで 1 週間、37 までで 1 ヶ月間、抗原性安定(高温を避けること)。単味ワクチンと DTP 三混、Hib、A 肝との混合ワクチンもあり、混合ワクチンと各ワクチン単独接種の間に免疫獲得状況に差はなく、干渉したりしない。

免疫原性、臨床的有効性、有効率：液性・細胞性免疫ともに獲得良好。3 回接種で 95%を超える接種者が感染防御レベルを超える免疫獲得。40 歳をすぎた接種者は抗体獲得やや低下、3 回接種後の抗体価が低い例では追加接種によく反応する。最近のメタ解析でも出生時 HB ワクチン接種の有効性が証明されている。

ワクチン接種量と接種：一般的に新生児と 15 歳以下小児では成人の半量を筋注。新生児では生後 24 時間以内が望ましく、BCG とか複数の単独ワクチンを同時に接種する時には接種部位を別々にすること。

接種スケジュール：選択肢は多いが 1 回目は出生直後、24 時間以内(これは低侵淫地区でも)。その後少なくとも 4 週の間隔をおいて 2 回か 3 回。間隔をあけることで抗体価は上昇するが陽転率がよくなるわけではない。通常初回は 3 回、1 回目は単独、2 回目 3 回目は他の定期接種と混合または同時接種。その国の定期接種スケジュールにあわせ、4 回の場合も。施設における出産とか訓練を受けた助産スタッフの指導が HB ワクチン普及に関連。中断した場合残り回数を追加。未熟児の場合、成熟児と同じでよいが出生時体重 2kg 未満児では 1 回目を勘定にいれず、その国のスケジュールでその後の 3 回を実施。

” catch up ” 作戦：低侵淫度地域(血清疫学調査が重要)居住者では医療従事者、医療関係学

校入学者、高侵淫度地域への旅行者、医療現場で針刺しリスクの高いものへの現場中心の“catch up”作戦履行が重要となる。

- (4) ワクチンによる免疫持続と追加接種の必要性：台湾の調査で 15～18 年間、ガンビアの調査では 15 年間は新生児接種・追加接種後の抗体価は安定しており、他の経過観察調査でも新生児接種後 22 年間有効との報告もあり、いまだ結論は得られていなくて今後の検討が必要であるが、現在のところ、追加接種は勧められていない。
- (5) 免疫不全者への接種：HIV 陽性妊婦からの出生児には HIV 感染対策を（まだ一定の結果が得られてなくて方針も確定していないが）優先。
- (6) 禁忌：初回とか 2 回目 3 回目でアレルギー反応をおこした者。
- (7) ワクチン接種前後の血清検査：ワクチン接種前の血清ルチン検査は原則としてすすめない。但し出来る状況下では接種対象の選択、接種後の抗体獲得判定に抗体検査が実施されている。抗体測定が勧められるのは(1)医療事故、(2)HBs 抗原陽性妊婦からの出生児、(3)慢性腎透析者と HIV 感染者、(4)HBs 抗原陽性の男性同性愛者のパートナー。ワクチン接種後 1～2 ヶ月で抗体測定。
- (8) ワクチン接種後の副反応：稀。軽症が多い。アナフィラキシーの報告は稀でギランバレ症候群や多発性硬化症のような脱髄疾患の報告はない。
- (9) 免疫グロブリンによる受身免疫：HB ワクチンに対する免疫グロブリン(HBIG)投与が(1)HBs 抗原陽性妊婦の新生児に対し出生時にワクチンと同時に投与、(2)針刺し事故直後、(3)性感染症リスク後、(4)肝移植で感染リスク例、に実施されている。いずれも原則としてワクチン接種と同時に実施。
- (10) WHO の HB ワクチン公的見解：HBV 高侵淫国 = HBV 慢性感染が新生児期感染が主体である国 = では生後 24 時間以内に全新生児に定期接種として HB ワクチン接種を勧める。HBV 低侵淫国では妊婦の検査や新生児ワクチン接種が可能かどうか、状況に応じて考えること。

愛知県感染症情報

2009年46週(2009年11月9日～2009年11月15日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																		
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	52	17	41	11,447	7	123	459	123	32	8	99	2	7	52	0	4	0	0	8	1
総数 (名古屋市を除く)	125	112	24	37	12	32	9,108	5	86	300	101	25	7	85	1	5	40	0	4	0	0	8	0
名古屋 名古屋市	70	70	11	15	5	9	2,339	2	37	159	22	7	1	14	1	2	12						1
尾張 東部 瀬戸	9	9	2	3	1		442	1	13	17	2	2		3			1						1
海部 津島 津島	7	7	2	2	1		548		9	62	7	1		9		1	1						
尾張 中部 師勝	4	4	1	1			207		2	3	1							1					
尾張 西部 一宮	16	12	3	4	1	5	614		7	19	11		2	6			1					4	
尾張 北部 春日井	9	9	2	3	1	11	1,075	2	8	29	3	4		3	1		5		1				
	江南	6	6	1	2	5	471		7	37	7		2	7			2						
知多半島 半田	6	6	1	2	1	1	524	1	4	5	2			4			10					2	
	知多	7	7	2	2	4	496		2	13	9			3			4						
西三河 南部 岡崎市	11	7	2	2	1		680		4	7	18	1		14		2							
	衣浦東部	13	13	2	4	3	1,502	1	13	41	24			15		1	8						
	西尾	5	5	1	2		401		3	10	3	1		3			1						
西三河 北部 豊田市	9	9	2	4	1	1	621		1	12	3	1	2	2			4		2				
東三河 南部 豊橋市	12	8	2	4	1		725		9	18	3	14		9			1					1	
	豊川	9	8	1	2	2	784		4	27	8	1	1	7		1	2						
東三河 北部 新城	2	2			1		18																

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告

愛知県感染症情報

2009年46週(2009年11月9日～2009年11月15日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	*インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	32	9,108	5	86	300	101	25	7	85	1	5	40	0	4	0	0	8	0
～6ヶ月	8	20			7	1			2									
～12ヶ月	5	81			18	4		3	40		1							
0歳																		
1歳	9	181	1		43	25	7		39		1	2		1				
2歳	5	261	1	2	34	17	9	1	4			2						
3歳	3	419	1	7	26	18	3				1	5					1	
4歳	1	536	2	12	35	21	4					7					1	
5歳	1	694		12	17	8	2				1	7						
6歳		770		18	19	5		2		1	1	5						
7歳		812		8	9	2						3						
8歳		750		9	12			1				4						
9歳		680		4	12							4						
5歳～9歳																	2	
10歳～14歳		2,339		9	26							1					3	
15歳～19歳		589		1	8													
20歳～				4	34													
20歳～29歳		353												1				
30歳～39歳		357															1	
40歳～49歳		176																
50歳～59歳		56																
60歳～69歳		20																
70歳～														2				
70歳～79歳		11																
80歳以上		3																

*新型インフルエンザ(A/H1N1)を合わせた報告